

平成 30 年 1 月 1 2 日

南の風ウインターカップ特集号VI

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

女子のゲームで印象に残ったことや気になったことを書きます。

まず、準決勝の安城学園（愛知）VS八雲学園（東京）のゲームです。

ゲームの内容に入る前に、紹介しなければならない選手がいます。八雲学園の今大会屈指のスーパースター奥山 理々嘉選手（180cm、2年生）です。ご承知の方も多いと思いますが、彼女はミニバスは鶴久保コスモス、中学は坂本中と横須賀出身のプレイヤーです。2015年に全国中学校バスケットボール大会に出場しベスト4の成績を収めました。

今回のウインターカップでは、3回戦の徳山商工（山口）戦で、大会新記録となる『1試合最多得点記録62点』を記録しました。因みにこれまでの記録は、加藤 貴子選手（富岡高校）と長岡 萌映子選手（札幌山の手高校）の1試合51点が最高でした。もの凄い記録です。

奥山選手の魅力は身体能力と運動能力がスバ抜けている上、身体接触を嫌がらないメンタルの強さにあります。彼女の得点記録を紹介します。

2回戦	県立郡山商業（福島）戦	45点
3回戦	県立徳山商工（山口）戦	☆62点
準々決勝	県立広島皆実（広島）戦	42点
準決勝	安城学園（愛知）戦	42点
3位	桜花学園（愛知）戦	16点

以上です。凄すぎます。観ていて驚いたのは勿論ですが、呆気にとられました。ポストでもミドルでも、3Pシュートも軽々こなします。何か加藤 貴子選手（南台ミニバス、笹下中、富岡高校、シャンソ化粧品）を彷彿させる選手です。これからが本当に楽しみになります。

さてゲームの内容についてです。3Qまでは終始安城学園のリードでゲームが進行します。4Qに入り、何とか追いつきたい八雲学園は、4番奥山選手の2Pシュート4本とフリースローで67対68の1点差に詰め寄ります。そして残り6分52秒で、5番小村選手の3Pシュートで逆転します。70対68となります。ここからの八雲学園の攻め方、守り方に私は首を傾げてしまいました。ボールを運びフロントコートにエントリーした八雲学園は、立て続けに3Pシュートを打ち出すのです。まだリバウンダーがポジションにいないにも拘わらず。安城学園はすかさず、リバウンドを13番の野口選手が掴み、速攻につなげます。残り5分、76対70となり6点リードされた場面で八雲学園がタイムアウトを取ります。（八雲学園の攻めに一気に離したいと言う、『あせり』を感じました）

オフェンスの指示がどうだったのかは分かりませんが、その後も八雲学園のオフェンスに大きな変化はなく、3P頼みになります。また、ディフェンスも残り時間が無くなる中、オールコートでプレスすることなく（ベンチからは、「当たっていけ」という声が上がってはいましたが）90対85で敗れ去りました。観ていて釈然としなかったのは私だけではないと思います。結果云々ではなく、70対68でリードした時点でまだ時間は十分にあるわけですから、奥山選手にボールを入れる工夫をし、中を突いて外に合わせて3Pを打つ方がよかったのではと感じました。次号で特集をまとめます。